

視点

WHOに対するさまざまな

貢献への御礼

すみ
まな
学



など非常に重要なサービスに活用されました。

地震発生後8カ月程度経過した現在、復興作業を徐々に進めている状況で、WHOとしては、壊滅的な打撃をうけた保健サービスを少しずつ回復させるための活動を推し進めています。この中には心の傷を受けた人々への精神保健サービスや衛生状況の向上なども含まれています。

皆様がご存知のように、パキスタンではこの7月に大規模な洪水が発生し、1800万人以上の人々が影響をうけ、それぞれ数十万人以上の人々が、下痢、呼吸器感染症、皮膚病、マラリアなどの疾患にかかっています。ここでも弱者である子どもたちが大きな被害を受けており、WHOは現在、他の国際機関と協力しながら、こうした方々への保健活動を推進しています。

今回のご寄付は全国の私立幼稚園関係者の皆様方が、WHOの活動にご賛同し、集めていただいたとても尊いものと考えております。今後とも皆様の温かいご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。(WHO(世界保健機関) 総務局渉外医官)

マニラにあります。)及び147の国事務所により構成されます。この世界中に張り巡らせたネットワークを活用して、原因不明の病気や大規模災害が発生した場合には迅速に対応できる体制をとっています。WHOは保健全体をカバーする必要があります。エイズ・結核・マラリア・熱帯病のような慢性的な感染症からインフルエンザなどの急性感染症、そして母子保健やがんや糖尿病などの非感染症といわれるものまで幅広く対応しています。

現在のトップ(事務局長)は香港出身のマーガレット・チャン氏です。

香港の厚生大臣を9年間務めた後にWHOに入り2006年から事務局長を務めています。現在WHOの国際専門職員は2500名程度ですが、このうち日本人は35名と日本の国力と比較してわずかとなっています。

さて、今回、ご協力いただきましたハイチの地震に話題を戻します。今年の1月12日にハイチを襲った地震は過去200年以上の間で最も強いものでした。ハイチという国はとても貧しい国で人口の3分の2は1日2ドル(約170円)以下で生活している人たちでした。こうした貧しい人々を襲った地震は人口の15%にあたる150万人以上の人に打撃を与え、22万人もの人の命を奪いました。特に弱者である子どもたち、お年寄り、妊婦さんなどに大きな被害を与えました。

皆様にお送りいただいた、ありがたいご寄付は、WHOの責務である保健関係の活動に活用されました。

具体的には、子どもたちへのワクチンの接種、移動式のクリニックなどを活用した保健サービスの提供、診療所における必要不可欠な医薬品の配置

全国の私立幼稚園関係者の皆様、幼稚園児及び保護者の皆様、前回の中国・ミャンマーへのご協力に引き続き、ハイチ地震におけるWHOの活動にご寄付いただき、WHOを代表して御礼を申し上げます。また、今回のご寄付に関するアンケートも実施していただき、お子様や保護者の皆様の温かい気持ち、とてもよく伝わるもので感謝しております。WHOのウェブサイトに近い将来掲載する予定としております。(担当部局がパキスタン洪水対応に駆け出し、対応が遅れており申し訳ありません。)

この場をお借りしまして、少しWHOの紹介をさせていただきますと、WHOという組織は、国連組織の中で保健活動を担当している専門機関です。本部はジュネーブにあり、6つの地域事務所(日本は西太平洋地域に属し地域事務所はフィリピン

2010.10／私幼時報

思った。

◇みんなが募金をする、小さな力が大きな力になると思った。

◇遠くに離れた国でも、何か出来ることがあることを子どもに知ってほしかった。

◇お金の使い方を子どもに示したかったから

◇幼稚園からの呼びかけだったから
②今回の募金活動がハイチの人々、特に子どもたちのサポートに役立つことについてどのように思いますか？

◇地震によって親、兄弟が犠牲となった子どもたちがたくさんいると思う。少しでも希望を持ってくれるよう願っている、子どもたちのために使われることは喜ばしい。

◇素直にうれしく思う。

◇個人の力では役に立たなくても、多くの人と一緒に参加したことで、サポートが出来たことにうれしく思った。

◇ハイチの人口に子どもの数が多いと聞きました。そんな子どもたちに希望を与えることができるお手伝い出来るなと思った。

◇同じ子どもを持つ身として他人事とは思えなかった。

◇子どもたちの未来につながってほしいと思った。

◇早く元氣を取り戻してほしい

◇社会を背負ってたつ子どもたちを支援することは、社会の未来を支援することにつながると思ったから

③募金がどのように使われたか知りたいと思いますが、特にどの活動に関心がありますか？

◇子どもたちの一人一人の心が明るく温まるために、基本的な衣食住を中心とした生活、そして心のケアを望みます。

◇生活基盤を支えること(食糧支援、就労支援、教育支援など)

◇命を守る活動には関心があります。

◇ワクチンなど医療活動に関心があります。

◇抗レトロ薬治療でしょうか？HIVに感染してほしくありません。

◇女の人は体の衛生面にも気を使うので役立ててほしい。

◇子どもからおやつは買ってあげられたのかと聞かれ、びっくりしました。いかがでしょうか

④テレビなどの画像によって被害にあっているハイチの子どもたちを知らなかったと思いますが、そのと

きにお子さんどのように反応されましたか？

◇娘と二人、沈黙のまま、数分間テレビの映像を見ていました。そして、怖がる娘の姿があった。

◇しばらくテレビに釘付けになった。

◇どうしてこうなったのとの質問がたくさんあった。

◇実際に世界で起こっていること信じられないようでした。

◇自分の家が壊れないか心配していた。

◇家を建ててあげたい。

◇悲惨な映像に驚いていた。

◇自然の力の怖さを感じたようだった。

【会長への質問】

①今回の全日本私立幼稚園連合会からの寄付は2008年における中国・ミャンマーへの貢献に続いて二回目となりますが、なぜこうした貢献を健康問題を扱うWHOに行なうことを決断されたのですか？

2007年に行なわれました、全日私幼連の設置者・園長全国研修大会において「日本の子どもたち、世界の子どもたち」についての記念講演を進藤奈邦子先生にお願いいたし

ました。そのおり深くWHOの活動に私立幼稚園関係者が感銘を受け、義捐金の窓口にぜひお願いしたいということになりました。

②こうした活動を行なうにあたって、子どもたちもしくはその両親のこの活動に対する反応はどのようなものでしたか？

子どもたち、子を持つ保護者の気持ちには国境はなく、また被災者、被災者に対する救援者の気持ちにも国境がありません、みな自分の身に起こったように感じております。

特に保護者におきましては、世界の子どもは、自分たちの子どもと同じように、平等に教育を受けられ、健康に育っていくことを強く希望しております。よって、募金活動が特別な行動ではなく、救援活動に参加できる機会を与えてくれたことに感謝をしているようです。私からも、こころよくお受けいただきましたこととに、感謝申し上げます。

なお、WHOのハイチにおける活動報告(原文)については、全日私幼連ホームページに掲載しております。

高木義明文部科学大臣へ要望

全日私幼連

う設備、面積などナショナルミニマムの堅持などの意見を述べ、現場の不安が大きく現場の混乱を避けるべ

きで、議論が拙速であり、慎重かつ十分な議論が行なわれるよう要望しました。大臣等からは、幼児教育の重要性を理解していること、忌憚のない意見を出してほしいこと、幼稚園のノウハウが損なわれないようにしていきたいことなどが話されました。

●高木衆院議員が文科大臣に
9月17日、菅直人改造内閣が発足し、文部科学大臣に高木義明衆院議員が就任。同副大臣には、鈴木寛参院議員が留任、笹木竜三衆院議員が就任。同大臣政務官には、笠浩史衆院議員、林久美子参院議員が就任されました。

10月6日、全日私幼連の正副会長等は文部科学省を訪問。高木文科大臣、鈴木副大臣、林大臣政務官と面談し、「子ども・子育ての新システム」検討にあたって①幼稚園が学校教育法の第1条校として存続し、幼稚園が幼児教育機能を今後も継続できるようにすること②日本の幼児教育がどういう方向にいくか③集団の教育は何歳からか④幼児教育を行な

◎政府 子ども・子育て新システム検討会議

全日私幼連がワーキングチームで意見発表

政府の「子ども・子育て新システム検討会議」は、「作業グループ」の下に「基本制度ワーキングチーム」を置き、さらに「幼保一体化ワーキングチーム」「こども指針（仮称）ワーキングチーム」を置いて検討を進めることを決めました。

9月24日には東京霞ヶ関の中央合同庁舎で、「基本制度ワーキングチーム」の第1回会合が開催され、基本制度要綱案（主に基本制度設計に）について委員からさまざまな意見発

表が行なわれました。全日私幼連からは北條泰雅副会長が出席され、幼児教育の重要性が制度として明確に位置づけられるものであれば積極的に賛成するが、基本制度案要綱の不

明な部分や、新システム検討が性急すぎることを意見発表しました。政府側からは、基本制度ワーキングチームの検討課題として基本設計に関する資料が配布され、その内容についての説明がなされました。

【子ども・子育て新システムの基本制度案要綱に対する意見】
○子どもの最善の利益の観点から、幼児期の教育の重要性が、制度として明確に位置づけられるものであるならば積極的に賛成する。
○「要綱」においては、学校教育としての幼児期の教育の位置づけが不明である。
○直近の幼稚園教育の改善は、平成17年1月中教審答申、認定こども園法の成立、幼稚園教育要領改訂の流れの中で実施されている。今



回幼稚園教育のどこを改善する必要があると考えているのかが、「要綱」においては不明である。

○学校教育の体系の変更を含むのであれば、今回の検討はあまりにも性急と思われる。

○子ども家庭省の創設に言及しているが、子どもの範囲は18歳までと考えられるので、十分な国民的議論が前提となるのが当然と考える。

○ワーク・ライフ・バランス実現の提言に賛成である。極端な長時間保育、低年齢児保育、病児保育等が一般化されるような現状は、子どもの最善の利益の観点から緊急に改善すべきものとする。

○地方の自由度を尊重すること、財政力の差による地域間格差が拡大する可能性との関係に注意が必要である。

○公立幼稚園、公立保育所と新シSTEMの関係が全く分らない。

また、9月29日には、「こども指針（仮称）ワーキングチーム」が開かれ、（財）全日私幼研究機構の田中雅道理事長が出席され「子ども・子育て新システム」及び「こども指針（仮称）」について、新たなシステムや

指針を策定する議論が先行するのでなく、まず子どもがどう育つか、50年後の子どもたちのために、どのようなものがより良いのか慎重に議論すべきである等を意見発表しました。

関連資料は6～10ページに掲載。詳しい会議資料は全日私幼連のホームページでご覧いただけます。なお、「幼保一体化ワーキングチーム」の第1回会合は10月14日に開催される予定です。

鈴木寛文部科学副大臣が

私立幼稚園を訪問

9月14日、午前11時から正午までのおよそ1時間、鈴木寛文部科学副大臣は、東京都港区の私立みなと幼稚園（北條泰雅理事長）を訪問し、私立幼稚園における幼児

教育を視察しました。当日は、通常の保育が行なわれている時間帯で、副大臣は子どもたちと交流しながら保育の様子を興味深くご覧になりました。



園の安全を
考える！

園経営で予想されるあらゆるリスクに対応し、お答えします

こんなときどうする？

子どもたちが安全で幸せな園生活をおくるための危機管理ブック



セット定価：13,650円（本体13,000円）ケース入り 16-11223
セット内容：〈園生活編〉B5判 328ページ/〈労務編〉B5判 92ページ
〈資料CD-ROM〉for Windows

○お申し込みは貴園にお伺いしています小社特約代理店
もしくは学研幼児教育事業部 03-3726-8711まで

学研

子ども・子育て新システムの検討体制について

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ 基本制度ワーキングチーム（第1回） 平成22年9月24日	資料1
---	-----

子ども・子育て新システムについては、「子ども・子育て新システム基本制度案要綱」に基づき、平成23年通常国会への法案提出に向け、子ども・子育て新システム検討会議の作業グループの下で、「基本制度ワーキングチーム」を開催するとともに、特に専門的に検討する必要がある事項が生じた場合には、作業グループに諮った上で決定するものとする。

1 「基本制度ワーキングチーム」の設置【別紙1】

(1) 目的

子ども・子育て新システムに関する意見交換等の場として、関係者が参加する「子ども・子育て基本制度ワーキングチーム」を開催する。

(2) 会議の位置づけ

ワーキングチームは、法案が成立後に設置される「子ども・子育て会議（仮称）」への移行も視野に入れて開催するものとする。そのため、ワーキングチームの構成メンバーについては、「子ども・子育て会議（仮称）」における構成を視野に決定するものとする。

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ（副大臣、政務官級会合）の下に、ワーキングチームを設置する。

【想定される協議事項】

- ・ 「子ども・子育て会議（仮称）」の運営の在り方（PDCAへの関与等）
- ・ 制度の基本骨格
- ・ 幼保一体化
- ・ その他の給付設計
- ・ 費用負担 等

(3) 事務局

ワーキングチームの底務は、子ども・子育て新システム検討会議事務局において処理する。

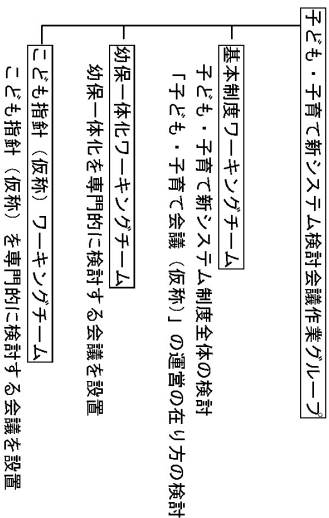
2 「幼保一体化ワーキングチーム」の設置・開催【別紙2】

- こども園（仮称）の機能の在り方など、幼保一体化の具体的な仕組みを専門的に検討するため、ワーキングチームを設置する。
- 本ワーキングチームは、子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に置く。

3 「こども指針（仮称）ワーキングチーム」の設置・開催【別紙3】

- 専門的検討が必要であり、また期間を要する「こども指針（仮称）」について、先行して速やかにワーキングチームを設置し、議論を開始する。
- 本ワーキングチームは、子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に置く。

＜参考＞ワーキングチームの構成イメージ



基本制度ワーキングチーム
開催要項

平成 22 年 9 月 16 日
子ども・子育て新システム検討会議作業グループ決定
平成 22 年 9 月 24 日一報改正

「基本制度ワーキングチーム」の構成員

【座長】

末松 義規	内閣府副大臣
秋田 言代美	東京大学大学院教育学研究科教授
池田 多津美	全国国公立幼稚園長会会長
大日向 雅美	恵泉女学園大学大学院平和学研究科教授
岡本 直美	日本労働組合総連合会会長代行
奥山 千鶴子	NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長
尾崎 正直	全国知事会子ども担当・子育て支援プロジェクトチームメンバー・高知県知事
菊池 繁信	全国保育協議会副会長
倉村 康平	全国市長会社会文教委員長・大阪府池田市市長
坂崎 隆浩	慶応義塾大学経済学部教授
高尾 剛正	日本保育協会理事
田中 常雅	日本経済団体連合会少子化対策委員会企画部長
田中 圭子	東京商工会議所少子高齢化問題委員会副委員長
北條 泰雅	静岡文化芸術大学文化政策学部准教授
宮島 香澄	日本労働組合総連合会総合政策局長
無藤 隆	全日本私立幼稚園連合会副会長
而角 道治	日本テレビ放送網解説委員
山口 文洋	白梅学園大学子ども学部教授
渡邊 廣吉	明治学院大学法学部教授
	大阪市立大学生活科学部教授
	日本子ども育成協議会副会長
	全国町村会常任理事・新潟県聖籠町長

1. 趣旨
「子ども・子育て新システムの基本制度案要綱」(平成22年6月29日少子化社会対策会議決定)においては、「子ども・子育て支援のサービス給付を、子ども・子育て当事者のニーズに即したものであるため、また、効果的かつ効率的な制度運用のため、地方公共団体、労使代表を含む負担者、子育て当事者、NPO等の子育て支援当事者等が子育て支援の政策プロセス等に参画・関与することができる仕組みとして、国に子ども・子育て会議(仮称)を設置することを検討する。」とされている。

そのため、子ども・子育て新システムの検討に当たって、子ども・子育て新システムの全体像や子ども・子育て会議(仮称)の運営の在り方等について、上記の関係者と意見交換等を行う場として、基本制度ワーキングチーム(以下、「ワーキングチーム」という。)を開催する。

ワーキングチームは、子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に、設けるものとする。

なお、子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に設ける「幼保一体化ワーキングチーム」及び「子ども指針(仮称)ワーキングチーム」における検討状況については、必要に応じて、ワーキングチームに報告するものとする。

2. 構成

(1) ワーキングチームは別添に掲げる者をもって構成する。

(2) 座長は、ワーキングチームの議事を整理する。

(3) 座長は、必要に応じて、関係者の出席を求めることができる。

(4) 子ども・子育て新システム検討会議作業グループの構成員は、ワーキングチームに出席することができる。

3. 庶務

ワーキングチームの庶務は、子ども・子育て新システム検討会議事務局において処理する。

4. その他

この要項に定めるもののほか、ワーキングチームの運営に関し必要な事項は、座長がワーキングチームに諮り定める。

幼保一体化ワーキングチーム
開催要項

平成 22 年 9 月 16 日
子ども・子育て新システム検討会議作業グループ決定

1. 趣旨

「子ども・子育て新システム」の基本制度案要綱(平成22年6月29日少子化社会対策会議決定)においては、「幼稚園・保育所・認定子ども園の垣根を取り払い(保育に欠ける要件の撤廃)、新たな指針に基づき、幼児教育と保育をともに提供することも園(仮称)に一体化することとし、「子ども指針に基づき提供される幼児教育・保育について、資格の共通化を始めたことでも園(仮称)としての機能の一体化を推進する」とされている。そのため、子ども園(仮称)の機能の在り方など、幼保一体化の具体的な仕組みを検討するため、「幼保一体化ワーキングチーム」(以下「ワーキングチーム」という。)を開催する。ワーキングチームは、子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に設けるものとする。

なお、子ども指針(仮称)については、別に設ける「子ども指針(仮称)ワーキングチーム」において、検討する。

また、ワーキングチーム及び「子ども指針(仮称)ワーキングチーム」における検討状況については、必要に応じて、「基本制度ワーキングチーム」に報告するものとする。

2. 構成

(1) ワーキングチームは別添に掲げる者をもって構成する。

(2) 座長は、ワーキングチームの議事を整理する。

(3) 座長は、必要に応じ、関係者の出席を求めることができる。

(4) 子ども・子育て新システム検討会議作業グループの構成員は、ワーキングチームに出席することができる。

3. 庶務

ワーキングチームの庶務は、子ども・子育て新システム検討会議事務局において処理する。

4. その他

この要項に定めるもののほか、ワーキングチームの運営に関し必要な事項は、座長がワーキングチームに諮り定める。

「幼保一体化ワーキングチーム」の構成員

秋田 喜代美	東京大学大学院教育学研究科教授
入 谷 幸 二	全日本私立幼稚園連合会政策委員会委員長
大橋 由美子	全国国公立幼稚園長会副会長
大日向 雅美	恵泉女学園大学大学院平和学研究科教授
尾 崎 正 直	全国知事会子ども手当・子育て支援プロジェクトチームメンバー・高知県知事
小 田 豊 峰	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事
柏 女 聖 峰	淑徳大学総合福祉学部教授
金山 美和子	NPO法人ミーズ・ネット理事・長野県短期大学講師
清 原 慶 子	東京都三鷹市長
木 幡 美 子	フジテレビジョンアナウンサー
佐久間 貴子	ベネッセスタイルケア チャイルドケア事業部長
佐 藤 秀 樹	全国保育協議会保育施設検討特別委員会委員長
菅 原 良 次	全国私立保育園連盟常務理事
普光院 聖紀	保育園を考える親の会代表
古 渡 一 秀	NPO法人全国認定子ども園協会副代表理事
無 藤 隆 治	白梅学園大学子ども学部教授
山 口 昌 哉	大阪市立大学生活科学部教授
山 田 吉 彦	日本子ども育成協議会副会長
吉 邊 廣 吉	日本労働組合総連合会生活福祉局次長
	全国町村会常任理事 新潟県聖籠町長

(別紙3)

こども指針(仮称)ワーキングチーム
開催要項

平成 22 年 9 月 16 日
子ども・子育て新システム検討会議作業グループ決定

1. 趣旨

「子ども・子育て新システムの基本制度案要綱」(平成22年6月29日少子化社会対策会議決定)においては、「すべての子どもに質の高い幼児教育・保育を保障するとともに、家庭における子育て・教育にも資するため、幼稚園教育要領と保育所保育指針を統合し、小学校学習指導要領との整合性・一貫性を確保した新たな指針(こども指針(仮称))を創設する。」とされており、その策定に資するため、こども指針(仮称)ワーキングチーム(以下「ワーキングチーム」という。)を開催する。ワーキングチームは、子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に設けるものとする。

なお、「幼保一体化ワーキングチーム」及び「ワーキングチームにおける検討状況については、必要に応じて、「基本制度ワーキングチーム」に報告するものとする。

2. 構成

(1) ワーキングチームは別添に掲げる者をもって構成する。

(2) 座長は、ワーキングチームの議事を整理する。

(3) 座長は、必要に応じて、関係者の出席を求めることができる。

(4) 子ども・子育て新システム検討会議作業グループの構成員は、ワーキングチームに出席することができる。

3. 職務

ワーキングチームの職務は、子ども・子育て新システム検討会議事務局において処理する。

4. その他

この要項に定めるもののほか、ワーキングチームの運営に関し必要な事項は、座長がワーキングチームに諮り定める。

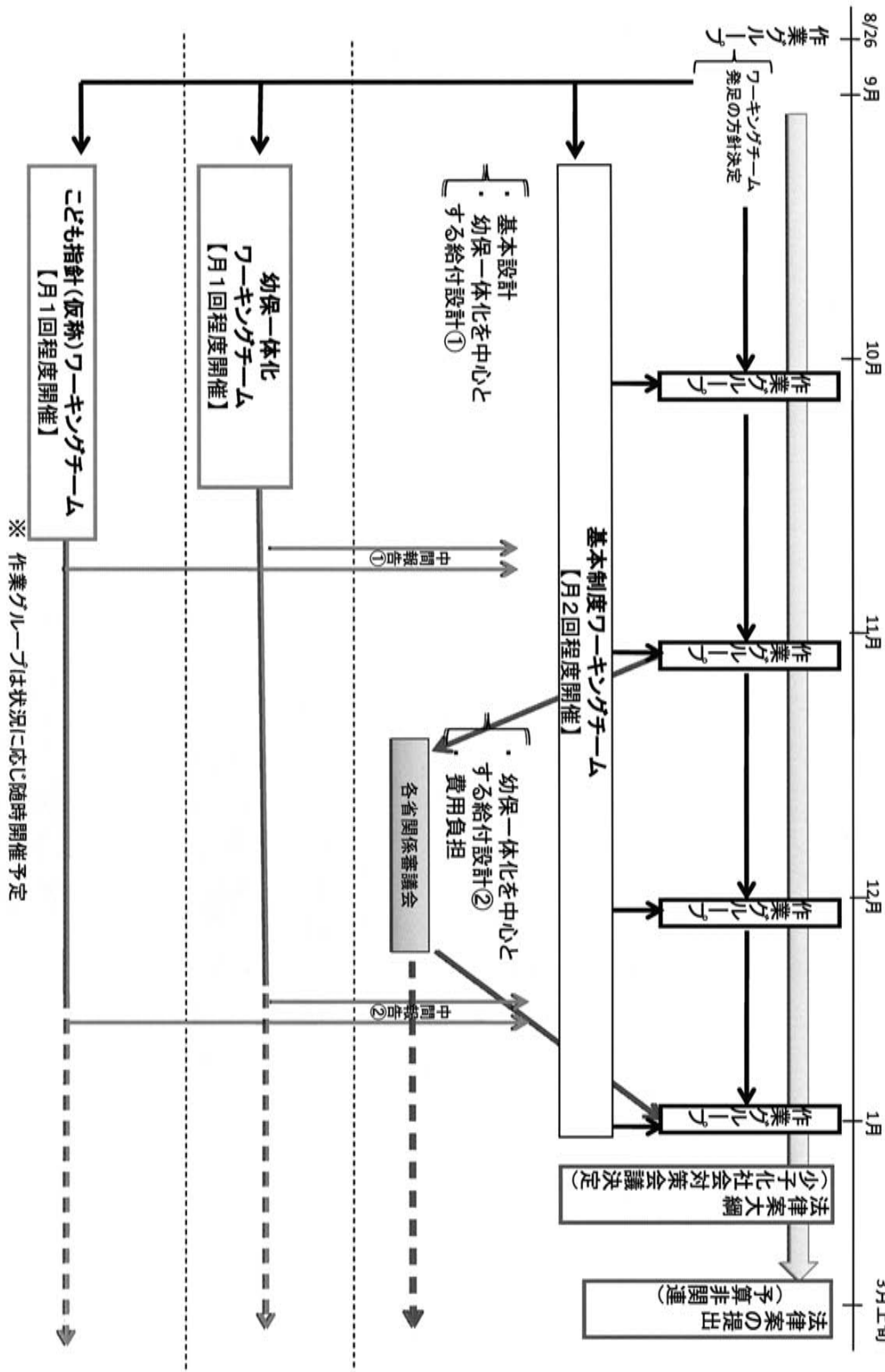
「こども指針(仮称)ワーキングチーム」の構成員

(別添)

秋田 喜代美	東京大学大学院教育学研究科教授
荒木 尚子	全国国公立幼稚園長会副会長
池 節子	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会会長
大場 幸夫	大妻女子大学学長
岡上 直子	全国幼児教育研究協会副理事長
小田 豊	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事長
島田 教明	日本保育協会保育問題検討委員会委員
竹下 美穂	保育園を考える親の会会員
田中 雅道	全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長
藤森 平司	全国私立保育園連盟保育・子育て総合研究機構研究企画委員
松田 愛子	NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事
御園 隆	全国保育協議会副会長・全国保育士会会長
無藤 愛子	白梅学園大学子ども学部教授
山縣 文治	大阪市立大学生活科学部教授
若盛 正城	NPO法人全国認定こども園協会代表理事
渡辺 英則	全国認定こども園連絡協議会副会長

子ども・子育て新システム・今後のスケジュール

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ	資料3
基本制度ワーキングチーム(第1回)	
平成22年9月24日	



※ 作業グループは状況に応じ随時開催予定

子ども新システム検討会議への対応を協議 子育て

9月15日、東京・私学会館において常任理事会が開催され、23人が出席しました。議長に村山十五副会長、議事録署名人には宮川義典常任理事、安家周一常任理事が選任されました。

■行政報告…濱谷浩樹文部科学省幼児教育課長から①平成23年度幼稚園関係概算要求②子ども子育て新システム会議の動向について資料をもと

◇希望するすべての子どもに予防接種を！キャンペーン

署名活動へご協力をお願いします

日本医師会では、予防接種の公費負担実現のため署名活動を行なっており、全日私幼連でもこの署名活動に賛同し協力することになりました。

署名用紙はすでに都道府県団体事務局を通じて、各幼稚園に届いていることと存じます。ご署名いただき、全日私幼連事務局までお送りください。できるだけ多くの教職員、保護者の皆様にご協力い

(総務委員長・中浦正音)

に説明・報告がありました。

■報告案件1…平成23年度幼稚園関係概算要求について／入谷幸二政策委員長から説明・報告がありました。

■報告案件2…子どもがまんなかプロジェクトについて／尾上正史座長から資料をもとに進捗状況について報告がありました。

■報告案件3…会務運営報告について／各委員会委員長から資料をもとに報告がありました。

■協議案件1…振興会費について／中浦正音総務委員長から資料をもとに提案があり、意見聴取を行ないました。

■審議案件1…子ども子育て新システム検討会議について／入谷政策委員長から子ども子育て新システムに係る協議会（仮称）等の委員派遣について説明があり、全日私幼連から各会議に委員を派遣することとなりました。▼子ども子育て新システムに係る協議会（仮称）／北條泰雅・全日私幼連副会長▼幼保一体化検討会／入谷幸二・全日私幼連政策委員長▼子ども指針（仮称）検討会／田

中雅道（財）全日私幼研究機構理事長。また、今後の対応方針の方向性が提案されました。

■（財）全日私幼研究機構からの報告
田中雅道（財）全日私幼研究機構理事長、東重満研究研修委員長、坂本洋調査広報委員長から報告がありました。
(総務委員長・中浦正音)

102条園研究会議開かれる

9月16日、東京・私学会館において、平成22年度・102条園研究会議が開催され、全国から89人の先生方が出席しました。主な内容は次の通りです。

▼講演Ⅱ「幼保一体化と幼児期からの体系的な教育の実施について」講師…濱谷浩樹・文部科学省初等中等教育局幼児教育課長

▼情報交換Ⅱ「102条園における今後の在り方について」全国から参加された先生方から、現状の報告と今後の在り方について情報交換を行ないました。

母とおさなごの歌

「母とおさなごの歌」は(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の事業の一環として取り組んでおります。ご採用を重ねてお勧めいたします。



(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 編
B6判/128頁
定価714円[本体価格680円+税5%]
メロディー譜、歌詞、コードネーム付

特別価格
630円(税込)

期間：2010年10月中旬～
2011年1月末まで

※期間外のお求めの場合は
別途ご相談下さい。

「母とおさなごの歌」購入申込書

幼稚園名		電話番号	
郵便番号	住所	注文冊数	
	都道府県	市区町	

■お申込み先・お問合せ先は



株式会社 全音楽譜出版社 <http://www.zen-on.co.jp>
〒161-0034 東京都新宿区上落合 2-13-3 TEL.03-3227-6270 FAX.03-3227-6276

※ご記入頂いた個人情報は購入申し込みの控えとしてのみ使用させていただきます。

必要事項をご記入いただき、FAXにてお申込み下さい。

FAX:03-3227-6276

● 教員免許更新制

現行制度は有効、適切な手続きを

文部科学省は教員免許更新制に関して、6月のコメントに引き続き9月16日付であらためて正式な見解を公表しました。

特に新しい内容はありませんが、

法律改正がなされるまでは現行制度が有効であり、特に来年3月末をもって修了確認期限を迎える教育職員については、適切な手続きをとられる様に重ねて注意を促しています。

現状として、来年3月末に更新期限を迎える現職者で未だに免許状更新講習の受講による更新手続きや、免除ないし延期申請手続きが完了していないケースも散見されるようです。その様な状態のままでは、来年4月以降、学級担任等の教育職員として発令することはできず、職員配置や管理運営補助金等にも影響する

可能性があります。

つきましては、本財団としましても対象となる教育職員にあつては各免許管理団体(都道府県教育委員会)に手続き等について早急に確認をとるとともに、適切な対応をとられることを強く求めるところです。

(研究研修委員長・東重満)

◎ 免許状更新講習の今後の開催予定

平成22年11月20日	福岡県福岡市(選択・6時間)
平成22年11月27日～28日	宮崎県宮崎市(必修・12時間)
平成22年12月4日～5日	岩手県盛岡市(必修・12時間)
平成22年12月25日～26日	東京都千代田区(必修・12時間)
平成23年1月6日～7日	大阪府大阪市(必修・12時間)
平成23年1月8日～9日	山形県山形市(必修・12時間)
平成23年1月14日	北海道札幌市(選択・6時間)
平成23年1月15日	山形県山形市(選択・6時間)

平成22年9月16日
文 部 科 学 省

教員免許更新制について

教員免許更新制等の今後の在り方については、これまで昨年10月21日及び本年6月3日にお知らせしたところですが、これに加え、改めて以下のとおりお知らせいたします。

関係各位におかれましては、その趣旨をご理解いただき、引き続きの取り組みをお願い申し上げます。

1. 教員免許更新制の在り方については、中央教育審議会における審議など、教員の資質能力の向上方策の抜本的な見直しを行う中で、総合的に検討することとしておりますが、一定の結論が得られ、これに基づく法律改正が行われるまでの間は、現行制度が有効です。現職教員の方は、現行制度に従って、定められた期間内に免許状更新講習の課程を修了し、免許管理者の認定を受けることが必要です。
2. 特に今後、来年3月31日に修了確認期限が到来する方については、更新講習の受講を終了し、来年1月末日までに免許管理者宛てに修了確認等の申請を行うことが必要になります。免許管理者・任命権者におかれては、それらの現職教員の方に対する周知、受講機会の確保等につき、適切な対応をお願いいたします。
3. また、免許状更新講習を開設する大学等におかれましては、現職教員の十分な受講機会が確保されるよう、都道府県教育委員会等との情報交換を行うとともに、必要に応じて国の補助事業の活用も検討の上、引き続き免許状更新講習の開設や、質の高い免許状更新講習の実施にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

幼児教育実践学会が歩み始めました

(財)研究研修委員会協力委員 亀ヶ谷 忠宏

8.21.22

東京・東京家政大学

平成22年、猛暑の中でスタートした幼児教育実践学会。

この会を通して感じた印象。それは、参加の先生方からの実践学会誕生に期待するあたたかな眼差しと保育に向き合う真剣さと情熱でした。

また、そこからは、今、私立幼稚園の保育の中には、独自性と独善性をはき違えていて、こんなに自分勝手にやっていて大丈夫なの？ 何とかしないと、このままでは近い将来、大変革の中で保育の芯の脆弱な私立幼稚園丸は荒波に抗しきれず沈んでしまうのではないか！という共通の危機感も感じられました。

このような、熱い思いを持った253名の幼児教育実践者と研究者が8月21・22日に東京家政大学につ

どい、すべての幼児教育の現場の実践を豊かにし、幼児教育の有用性を社会に証明し、ひいては子どもの育ちが最優先される社会が実現されることを目指し、(財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が主催する第1回幼児教育実践学会が開催されました。

この会の3つの柱、①この学会で行なう研究は、保育現場での実践を踏まえ、発表は事例を用いて、現場にフィードバックできることを念頭に研究会では参加者同士が活発に意見交換を行なう。②生きた研修のメイキングの仕方を学び、すべての園



▲基調講演 (園内研修Ⅰ)



▲学会企画シンポジウム

の園内研修が充実することを目指す。③現場と共に歩む若手研究者を育てる。

1日目は、東京大学大学院教育学研究科教授の秋田喜代美先生による基調講演「園内研修を考える」、続いて学会企画シンポジウム「新システムにおける保育の在り方を考える」が行なわれました。その後、保育者と研究者の交流懇親会が行なわれました。

2日目は、午前中、園内研修の実践編としてせんりひじり幼稚園に提案していただき、続いてポスター発表が行なわれました。午後、各県からの口頭発表が行なわれました。口頭発表：12件（北海道、埼玉、東京、神奈川、静岡、愛知2、和歌山、大

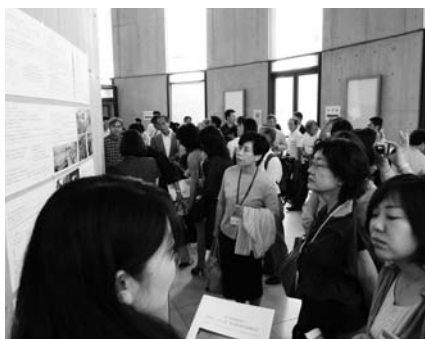


阪2、広島、福岡)、ポスター発表: 6件(北海道2、福島、神奈川、兵庫、福岡)

全体会、ポスター発表、口頭発表ではどの場も時間が足りなくなるほどの真剣で活発な提案発表や意見交換が行なわれ、気迫と熱気に溢れていました。

開催に当たって、東京家政大学には会場の提供をはじめ多大なご協力をいただきました。そしてなにより大澤力教授には準備段階より大変なご尽力いただきました。心より感謝申し上げます。

また、スタッフとして20名の東京・埼玉・千葉・神奈川の先生方も猛暑の中お手伝いいただきました。研究



▲▼ポスター発表



▲口頭発表(園内研修Ⅱ)

研修委員の先生方、保育6社の方々、事務局にも支えていただきました。以上、多くの皆様のお力に心より感謝申し上げます。

発表の要旨は後日、(財)全日私幼研究機構のホームページに掲載します。



▲口頭発表

第2回は、今のところ平成23年8月20日(土)・21日(日)に本年と同じ会場の東京家政大学を予定しています。

今後幼児教育実践学会は、私立幼稚園の幼児教育の成果を社会に示すことのできる質の高いものにするために、生き生きとした現場の実践研究を大切にしながら、それを研究者と共に理論的に支え、また、すべての園の園内研修が充実し、すべての園の保育の質の向上を目指して、たどたどしくも日本の幼児の幸せのために着実な歩みを進めてまいりたいと思います。

(神奈川県川崎市・宮前幼稚園)

●フレーベル館創立100周年記念出版●

THE保育-101の提言-vol.1

無藤 隆/編著 2,100円(本体2,000円)

26×19cm 210ページ

あらゆるジャンルの専門家、先駆者たちから届いた保育への提言。これからの保育を考えていくためのヒントが詰まった1冊。

本社:〒113-8611 東京都文京区本駒込6-14-9
(03)5395-6608 営業総括部 (03)5395-6613 出版営業部

【豪華執筆陣】
小柴昌俊(物理学者)
椎名誠(作家)
田原総一郎(ジャーナリスト)
服部幸應(料理評論家)
坂東眞理子(評論家)
日野原重明(医師)
やなせたかし(絵本作家)
ほか多数

100th
フレーベル館

続刊予定

vol.2...2008年12月刊行予定
vol.3...2009年12月刊行予定

フレーベル館

<http://www.froebel-kan.co.jp/>



第2回ようちえん絵本大賞

～全国の私立幼稚園のお父さん・お母さんが選んだ絵本～

今年度は保護者が対象

(財)全日私幼稚園研究機構では、全国の私立幼稚園に通う園児の保護者を対象とした「第2回ようちえん絵本大賞」全国の私立幼稚園のお父さん・お母さんが選んだ絵本」を実施いたします。

絵本は子どもの成長にとって欠かすことのできない重要な役割を担っています。わが国においてこれまで数々のすぐれた絵本が出版され、幼稚園において読み継がれています。これからもすぐれた絵本が出版され、幼稚園や家庭において親しまれていくことは、子どもの心の成長にぜひ必要です。このような願いを込めて、全国約8千の幼稚園に通う園児の保護者が参加して選ぶ絵本大賞を実施いたします。

今回の投票は保護者を対象とし、保護者個人からの投票も可能となっております。貴園から保護者の皆さまに呼び掛けていただき、この「ようちえん絵本大賞」を絵本の取り組みの一つとして行なっていただけ

らと願っております。

絵本を通じて幼児教育の大切さをご理解いただけるような活動につなげてまいりたいと願っておりますので、ぜひともご協力くださいますようお願い申し上げます。

(調査広報委員長・坂本洋)

【投票に際してのお願い】

①今年度の「ようちえん絵本大賞」は保護者が対象です。貴園からの周知をお願いいたします。

②投票用紙は本誌に同封されております。こちらをコピーしてお使いください。投票用紙は本財団のホームページにも掲載しております。

<http://www.youchien-kikou.com/>

③締切日を空欄にしておりますので、貴園で締切日をご記入いただき配布してください。

④投票用紙をお取りまとめいただき、投票受付期間内（10月20日～12月28日）までに本財団にお送りください。

お手数ですが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・監修

研修ハンドブック

内容

- 「保育者としての資質向上研修俯瞰図」(全日本私立幼稚園幼児教育研究機構:作成)のカテゴリー別研修記録
- 研修履歴一覧表 など

資料

- 改訂 幼稚園教育要領
- 改訂 保育所保育指針
- 保育者としての資質向上研修俯瞰図 など

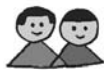
どのような研修に参加したかを記録し、
教員としての
資質向上を
サポートします。

B6判 112ページ
定価700円(税込)

お申し込みは株式会社世界文化社および世界文化社(ワンダー)販売会社まで

世界文化社

〒102-8187 東京都千代田区九段北4-2-29 TEL:03(3262)5128(営業部)



こどもが
まんが
PROJECT

第2回ようちえん絵本大賞 表彰要綱

～全国の私立幼稚園のお父さん・お母さんが選んだ絵本～

○ 主催

財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

○ 対象

全日本私立幼稚園連合会加盟園に通っている園児のお父さん・お母さん

○ 内容

ようちえん絵本大賞は、全日本私立幼稚園連合会に加盟する幼稚園の約8,000園の園児のお父さん・お母さんが選ぶ賞で、全国団体であるわが団体にしかできないという大きな特色があります。

日々、子育て真っ最中のお父さん・お母さんが大好きな絵本、わが子に読み聞かせたい絵本、わが子が喜んでいる絵本等を選んでいただき、上位10冊を集計して表彰します。

○ 投票受付期間

平成22年10月20日（水）～12月28日（火）

○ 投票方法

- ・ 一家族につき3冊以内とする
- ・ 応募用紙には、絵本の名前、作者名、出版社名を正確に記載する（絶版も含む）
- ・ シリーズものの絵本についてはその中の1冊を選ぶ（副題も明記）
- ・ 都道府県名・幼稚園名、保護者氏名、保護者住所を明記する
- ・ 投票用紙に記入の上、園単位で、財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機に郵送

○ 発表

- ・ 平成23年3月（予定）
- ・ PTAしんぶん平成23年3月号、私幼時報平成23年3月号で発表
- ・ 記者発表、ホームページ上でも発表する

○ 賞および副賞

- ・ 投票を集計し、上位5位を大賞、6～10位を準大賞、11～20位は書名を公表
- ・ 投票していただいた方の中から抽選により1～10位に選ばれたいずれかの絵本5冊を100名に贈呈する



まだ父親になる前の私は、「母親の役割」「父親の役割」について、「受け容れ包み込む」という母性原理と、「違いを分ける」父性原理を、あまり疑問も無く母親と父親に分けかぶせて講義していました。ところが実際に親になってみると、それまでの自分の講義内容に疑問を感じていきます。ただ、こうした違いを強調する考え方は今でも見かけますし、それをあえて否定する気持ちはありませんが。

私が気付いたのは、「母親の役割」「父親の役割」という役割分担の違いへの疑問です。それは、妻が体調を崩し、私が自然に育児に関わる中で体験した発見でした。その視点で見ると、子どもの成長過程に付き合う母と父の親としての「行為」には、基本的には差はないと感じます。そこには「親」というただ一つの役割があるだけで充分でした。器用・不器用

こどもの親体験のさよばやま

とか気付き方の違いなどは当然ありますが、それは経験差とか能力差ではあっても、本質的な性差ではなく、性差による役割の違いを特に意識するほどのものではないと思います。しかし二種類の親と付き合う子どもの方は、間違いなくほとんどすべてに母と父の違いを感じ、それを体験しているはずで、娘が母親に息子は父親に「同一化」しやすいということは、子どもの成長過程の基本原理の一つでもあります。子どもはごく自然に女性の親に母親を、男性の親に父親を体験していきます。だから、二人の親はことさらに母とか父という性役割を意識しすぎず、自分自身は「ただ親である」と思っているだけでいいのだと、経験的にも思います。そしてもう一つ大事なことがあります。それは、母とか父である前に、どのような「人間」であるかということです。つまり、役割とか性

別の前に、一人の人間であることがまず問われ、そこから性別も体験的意味をもち、やがて役割意識へとつながっていくことが望ましいと考えます。このことは、最近少しずつ増えてきた男性保育者にもそのままそっくり当てはまるでしょう。

1988年度のコレデコット賞を受賞した「月夜のみみずく」(ヨールン詩、シヨーエンヘル絵、工藤直子訳、偕成社)は、私の最も好きな絵本の一つです。兄たちはもう体験した野性みみずくとの出会を求めて、しんと冷える真冬の夜、父親と二人だけで暗い森の中にふみこんでいく小さな女の子の、心ときめく初めての体験は、おそらく母親とでは決して味わえないものだったでしょう。最後のページ、まるで赤ちゃんと戻ったような安心しきった姿で抱かれて帰る女の子と父親の後ろ姿に、私は父親としての自分と娘と

をつい重ねていました。

「おやすみなさいフランスシス」(ラッセル・ホーバン文、ガース・ウィリアムズ絵、福音館書店)は、3歳のフランスシスと両親との掛け合いをユーモアたっぷりに描いた、昔から変わらない人気絵本の一つです。寝る時間なのに眠くないフランスシスの言い分と行動に、母親と父親が全くと同じように「母性的」対応をしています。最後には父親がしっかりと「父性的」対応の姿を見せることで、普段の親子関係の中の、母性原理と父性原理のバランスにも気付きます。

絵本「パパが宇宙をみせてくれた」(スタルク作、エリクソン絵、ひしきあきら訳、BL出版)に登場するのは、ほくにどうしても宇宙を見せたいと、張り切って星の良く見える原っぱに連れて行き、夢中になって星や宇宙の話をするパパ。でも犬のうんちをべったりと踏みつけた途端、それが気になって意気消沈してしまう、まるで子どものようなパパ。面白かったよと逆になぐさめるべく、でもこんな逆転の親子体験は、ママとは多分無理ですね。



間藤 侑
新潟大学名誉教授

人創りは幼児教育から

青森県メモ
面積:9,607.05km²
県の花:りんごの花
県の木:ヒバ
県魚:はまち
県民鳥:白鳥

青森県の人口はこの5年間で約7万人減少、それに比例して在園児数も5年間で25,000名減少しました。私立幼稚園を取り巻く環境、経営環境は厳しさを増すばかり。この現実をしっかり見据えこれから私たちにできることは何なのか……

8月10日青私幼、教員研修大会が『幼児教育の成果を社会に示そう』人格形成は幼児期の生活と遊びから』と題し行なわれました。

また、9月13、14日の2日間にわたり、園長設置者協議会及び研修会が行なわれました。『幼保一体化の流れの中で幼稚園の果たす役割』と題し、(財)全日私幼研究機構理事長の田中雅道先生をお招きし勉強しました。2日目は文部科学省幼児教育課子育て指導官の坂下裕一様においていただき、子ども・子育て新システムに関する考え方、新政権下での政府の考え方、地方と都市との格差をにらんだ幼保一体化の在り方、幼保

一体の中で補助金給付の考え方等、子どもにとって良質な環境とは？豊かな環境とは？さまざまな観点からのお話をいただきました。参加者一同一言も聞き漏らすまいと真剣に聞いて勉強しました。

9月29日は、子どもの豊かな環境をめざして『国語力は家庭力』と題し、青私幼PTA連合会県大会が行なわれました。人口減少、園児数減少の中で教職員、園長・設置者、そしてPTAが三位一体となり協力して青森県の幼児のため、今何ができるのか、それぞれ考えさせられました。『国創りは人創り、人創りは幼児教育から』そして常に『子どもがまんなかプロジェクト』の考え方を踏襲し、取り組んでいきたい！との思いを一つにし、勇往邁進していくことを確認できた研修会だったと感じました。(青森県私立幼稚園連合会副会長、三沢市・三沢第一幼稚園／沼尾紀恵子)

4月20日に発生が確認された宮崎県の口蹄疫感染被害では、最終的に県内で29万頭もの牛豚、そしてベットのヤギまでもが殺処分されてしまいました。

私の住む川南町は畜産の町として有名でしたが、今や一頭の牛も豚もいなくなりました。町民は長年畜産業特有の悪臭に悩まされていたのですが、何のにおいもなくなった町からは、かつての活気やエネルギーまでもが失われてしまった感があります。経済的な損失は畜産農家だけにとどまらず、獣医師、削蹄師、運送業、商業、飲食業等幅広い分野に及んでおり、私の幼稚園でも「保育料の支払いをしばらく待ってもらえないでしょうか」という申し出が数件ありました。

そのような中、宮崎県私立幼稚園連合会では、PTA連合会と協力して、被害者支援のための募金活動を行ない、470万円を超える募金が行なわれました。

寄せられました。連合会ではこのうち100万円を県の支援対策本部に寄附し、残りの370万円については、直接間接に被害をこうむったすべての私立幼稚園児の家庭に見舞金として配布させていただく予定で準備中です。

8月27日に安全宣言が出され、復興のための各種イベントも次々に開催されて、県民の間にもようやく平穏な生活が戻りつつありますが、家畜とはいえ可愛がって育てていた動物たちを何百頭、何千頭も殺さなくてはならなかった畜産農家の方々の精神的な痛みは、想像以上に深いものがあるようです。

これから本格的な再建が始まるわけですが、子どもたちの明るい笑顔を支えにみんなで危機を乗り越え、復興のため頑張っていきたいと念じています。(宮崎県私立幼稚園連合会総務委員長、児湯郡川南町・川南幼稚園／多賀学昭)

子どもたちの明るい笑顔を支えに

宮崎県からのおたより

宮崎県メモ
面積:7,735km²
県花:エンキウスヤマザクラ、オビスギ
県魚:はまち
県鳥:コシロヤマドリ

編集後記

本当の感謝とは？

最近、表面上の「ありがとう」とか重みのない「感謝」の言葉が、飛び交う時代になっているように思います。本当の感謝の思いは、真実をしつかり見極めたときに自然と出てくるものです◆例えば、皆さんはご存じでしょうか。月は、人間の内臓にエネルギーを送り続けていること。また、隕石が人里に落ちていないようにコントロールしてくれていることをご存じでしょうか。また、雑草とよく呼んでいる草たちが、私たち人間が作物を植えやすいように大地を肥やしていることを。また、害虫といっている虫たちが悪い食べ物から守ってくれていることを。さらにバイ菌といっている菌たちが自然の循環の中心的役割を果たしていることを◆他にも私たち人間がその真実を理解していないことが無限にあると思います。感謝の心を養うために「真実」を知る必要があると強く思います。

(調査広報委員・宮下義昭)



新刊!

幼児期から児童期への教育

国立教育政策研究所
教育課程研究センター／編
A5判 定価 本体600円(税別)

幼稚園及び保育所と小学校との連携を深めるために、国立教育政策研究所が研究を進め、具体的な実践事例を中心にわかりやすくまとめた指導資料集。



幼稚園における 道徳性の芽生えを培うための事例集

文部科学省／編
A5判 定価 本体130円(税別)

乳幼児期における道徳性の発達について、配慮することの基本的な考え方と指導計画作成の手がかり、幼児の姿と教師の関わりなどについて述べた書。

ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表



子どもが直接触れるものだから、
より優しくソフトになりました。

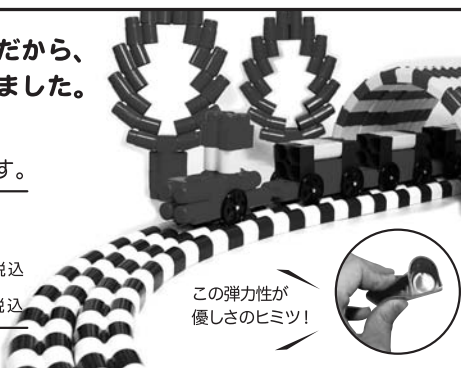
新登場 安全への配慮も万全です。

Bブロックソフト

HDF0215 セット ￥40,950 税込

HDF0216 バラ ￥21,000 税込

※詳しくは弊社営業までお問い合わせ下さい。



Bブロックソフトの特長

割れにくくなり耐久性・
安全性がさらにアップ

落としても大きな
音がしません。

軟らかくなったことにより、
曲線造形もつくれる
ようになりました。

この弾力性が
優しさのヒミツ!

シャクエツ



わかりやすい 仏教保育総論

新刊

■(社)日本仏教保育協会 編

■定価1,890円

(本体1,800円+税5%)

■B5判 160頁

発行・発売 **チャイルド本社**

日本仏教保育協会の編集による仏教保育の新しいテキスト。仏教保育の基本理念や仏教行事・教材の解説、保育者のこころがまえまで、幼稚園・保育園で必要となる知識や技術をコンパクトにまとめました。日常の保育に関するQ&Aも収録。仏教園に、必携の1冊です。